

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00135

研究課題名(和文)現代美術と映像メディアに関する実証的研究

研究課題名(英文)Research on Contemporary Art and Image Media

研究代表者

馬 定延 (MA, Jung-Yeon)

関西大学・文学部・准教授

研究者番号：90625047

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：研究代表者が論文「光と音を放つ展示空間 - 現代美術と映像メディア」(2019年)で整理した歴史と理論を、同時代の映像芸術に対する実践的な批評の中で深化させることを目的に構想された本研究課題は、研究期間内に開催された国内外のアーティストの個展、特に映像メディアを活用したインスタレーションを中心に展覧会調査、文献調査、アーティスト本人および関係者との聞き取り調査を行い、個別のアーティストの美学と方法論に対する分析を書籍、論文、記事、学会発表、講演、シンポジウム、上映会、展覧会などの形で発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題は、実施期間の大半と重なるコロナ禍の中で再認識された、上映と差別化できる展示という形式の美学ならびにその作品受容への影響を批評的に検証することによって、現代美術におけるスクリーン・プラクティスの様相の一端を明らかにした。研究対象となった国内外のアーティスト複数人に対する研究資料を多様な形で社会に発信した本研究は、ポスト・コロナ時代の映像芸術批評・映像メディア研究の実践的な試みとして位置付けられる。

研究成果の概要(英文)：Our critical research was conceived to actively engage with artists' practices, in the context of the histories and theories discussed in our preceding research, including the article titled "Exhibition spaces emitting light and sound: contemporary art and image media (2019)." We conducted extensive research on exhibitions, references and interviews with artists and collaborators on the related exhibitions, particularly focusing on solo shows of international artists known for their practices on installations using moving images, held during the period of this grant. Our research achievements were publicized in the form of several books and articles, presentations, lectures, a symposia, screenings and exhibitions.

研究分野：現代美術、映像メディア学、芸術学

キーワード：現代映像芸術 映像メディア スクリーン・プラクティス インスタレーション

1. 研究開始当初の背景

(1) 学術的な背景

アーティストによる映像作品が、一つのカテゴリーとして浮上したのは、いまから約半世紀前の1960年代頃のことである。21世紀の映像メディアの発達の中で再評価されている拡張映画(expanded cinema)、実験映画(experimental film and video)の文脈と重なり合うこれらの表現は、映画と美術の間の越境にとどまらず、インターメディア、アートとテクノロジーなど、同時代の前衛芸術運動と接続しながら展開した。20世紀の終わりまで、映像作品に関する美術の言説は、支配的なモダニズム批評の影響のもと、フィルムとビデオ、アナログとデジタルの比較や対照など、メディア固有の特質に基づいた分析が主流をなしていた。それに対して、メディアの単一性という概念が崩壊し、相互に越境し合うポスト・メディアの状況に対する認識が共有されはじめた2000年代以降には、メディアの多様性を内包するプロジェクトを用いた形式、特に映像インスタレーションとそのイメージの空間性に注目する傾向が顕著である。

(2) 同時代の社会的な背景

研究開始年の前年である2020年頭から2022年頃までの間、新型コロナウイルスの感染拡大により、国内外の展覧会と芸術祭が延期や中止を余儀なくされたり、映画館や美術館が臨時休館したりするなど、公共空間の中で時間をかけて映像作品を鑑賞することが困難になっていた。そのため、商業映画の多くがオンライン・プラットフォームに移行し、美術館がオンライン上の情報発信に力を入れ、作家側も有料・無料配信などの活路を模索していた。しかしながら、「上映」に近いこれらの方法は、作品の内容の伝達を可能にした利点があるものの、美術館やギャラリーにおける体験を根本的には置き換えられるものではなかった。

2. 研究の目的

本研究は、研究代表者が『スクリーン・スタディーズ』(光岡寿郎・大久保遼編、東京大学出版会、2019)に寄稿した論文「光と音を放つ展示空間 - 現代美術と映像メディア」で整理した、上記の学術的背景に関する歴史と理論を、同時代のアーティストによる作品の批評の中で深化させることを目的に構想された。コロナ禍という時代のリアリティーの中で再認識される、上映と差別化できる展示の美学とはいかなるものなのか。そして、その体験は作品の受容にいかなる影響を与えるのか。これらの問いに関する考察を通じて、現代美術における多様なスクリーン・プラクティスの一端を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

3年間の研究実施期間内に開催された関連展覧会、主に映像作品の制作で知られるアーティストの個展を中心対象に、展覧会調査、文献調査、アーティスト本人および関係者との聞き取り調査を行い、その調査研究の成果を論考、展評、インタビュー記事、学会発表、講演、シンポジウムと上映会の企画などの形で発信した。研究対象の中には、コロナ禍による入国制限でアーティスト本人の来日が叶わなかった、ピピロッチェ・リストの個展(京都国立近代美術館・水戸美術館、2021年)とホー・ツーニェンの個展(山口情報芸術センター[YCAM]、2021年)、研究代表者が実見できなかったチョン・ソジョンの新作(韓国国立現代美術館、2021年)も含まれていた。さらに、実施2年次となる2022年度から研究分担者として現代美術の

キュレーションを専門とする大坂紘一郎が加わり、実空間とオンライン空間における展覧会の企画、シンガポール、韓国などの現地調査からなる実践的な知見を研究に反映していった。

4. 研究成果

研究期間全体を通じて、研究代表者と研究分担者は相互の活動を有機的につなぎながら共同研究を遂行し、国内外のアーティストによる映像メディアを用いた芸術実践について批評することができた。当初は全ての成果を1冊にまとめることを想定していたが、実際の成果は個別の作家研究の文脈で書籍、論文、記事、講演、学会発表、シンポジウム、上映会、展覧会などの形で公表された。

その中で主要な成果として挙げられるのは、ホー・ツーニエン（シンガポール、1976年生まれ）に関する作家研究である。ホーは、《旅館アポリア》（あいちトリエンナーレ、2019年）と《ヴォイス・オブ・ヴォイド - 虚無の声》（山口情報芸術センター [YCAM]、2021年）、4点の新作で構成された個展「百鬼夜行」（豊田市美術館、2021年）を日本国内で制作発表した。これらの作品群は、当初から連作として企画されたわけではないが、非公式に「日本三部作」と呼ばれており、作中で取り上げられた小津安二郎、京都学派、妖怪など、古くて新しい題材を通じて幅広い観客の関心を引き寄せ、それらの歴史的かつ同時代的な意味を批評的に更新したと評価される。

本研究を通じて明らかになったのは、ホーの作品における映像 = イメージが、合成（compositing）と圧縮（compression）を特徴とする、ある種の「地層」として作られているということ、また、この点が近年におけるアニメーション技法とVR技術の採用、半透明や多孔質のスクリーンの使用、展示空間内のスクリーンの配置、重奏的な音響効果の演出などと緊密に繋がっていることである。さらに、作品を構成する複数のイメージを重ね合わせるプロセスは、アーティストによる映像の編集段階で完結するのではなく、実際の展示空間を移動する観客の身体感覚と能動的な思考によって完成されるものである。複合的かつ重層的な歴史現象としてのアジアの近代性という、作品の主題と表裏一体の関係にある、ホーの映像美学と制作の方法論は、上映によって置き換えることのできない展覧会体験を裏付ける最たる例だといえよう。

ホーに対する作家研究は、研究課題を開始した2021年にオンライン美術雑誌『ART iT』に日英2ヶ国語で公開された、《ヴォイス・オブ・ヴォイド - 虚無の声》のレビューをその出発点とする。その後、ホーの20年以上の作品世界と制作の方法論に光を当てた表象文化論学会第16回研究発表集会のシンポジウム「映像と時間」（関西大学、2022年）、その記録と解題が収録された『表象』第17号の特集（2023年）、『この国（近代日本）の芸術 <日本美術史>を脱帝国主義化する』（2023年）に収録された、論文「この領土の芸術、この芸術の領土：ホー・ツーニエンの<日本三部作>をめぐって」とインタビュー「制度をつくり直す問いかけとしてのキュレーション」、Singapore Art Museumにおける招待講演（2024年）とArt Sonje Centerで行ったオンライン講演（2024年）などの成果があった。なお、本研究課題の実施期間が終了した2024年6月現在にも、東京都現代美術館と韓国のArt Sonje Centerで開催されている二つの個展を対象に、ホー・ツーニエンに対する作家研究を継続している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 馬定延	4. 巻 252
2. 論文標題 館蔵品紹介：荒木悠《オラファー》（2014）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立国際美術館ニュース	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 17
2. 論文標題 空白を想像する	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 表象	6. 最初と最後の頁 14-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 -
2. 論文標題 ダラ・バーンバウムとは誰か？ーブラダ青山店にて「DARA BIRNBAUM」展が開催	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 GQ Japan	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 461
2. 論文標題 学びの現場としての現代美術：「ワールド・クラスルーム」展レビュー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Wolganmisool（韓国月刊美術）	6. 最初と最後の頁 142-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 47
2. 論文標題 【報告】シンポジウム：映像と時間	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 REPRE ニュース	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 11
2. 論文標題 ナムジュン・パイクにランダム・アクセスする	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NJP READER	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中田耕市 (編)、野中祐美子 (編)、中田耕市 (著)、パク・ジュウォン (著)、ダリル・ジングウェン・ウィー (訳)、馬定延 (訳)、有限会社フォンテーヌ (訳)	4. 巻 -
2. 論文標題 どこにもない場所のこと：フリーダム・ヴィレッジ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホ：どこにもない場所のこと (展覧会カタログ)	6. 最初と最後の頁 95-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 18-5
2. 論文標題 連載 田中功起 質問する 18-5：アーティストへの質問、あるいは「これまで」と「これから」の間には何があるのか：終わりという可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ART iT	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 18-3
2. 論文標題 連載 田中功起 質問する 18-3: アーティストへの質問、あるいは「これまで」と「これから」の間には何があるのか: 「これまで」と「これから」の間について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ART iT	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 -
2. 論文標題 展覧会「In the Flow」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hiroshima Animation Season 2022 Guide Book	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 246
2. 論文標題 館蔵品紹介: チョン・ソジョン《最後の喜び》(2012)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立国際美術館ニュース	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延 (構成)	4. 巻 74(1094)
2. 論文標題 ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホ (インタビュー)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 202-209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 18-1
2. 論文標題 連載 田中功起 質問する 18-1: アーティストへの質問、あるいは「これまで」と「これから」の間には何があるのか: 最初の接点	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ART iT	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 444
2. 論文標題 生と芸術の讃歌: Viva! Video 久保田成子	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Wolganmisool (韓国月刊美術)	6. 最初と最後の頁 124-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jung-Yeon Ma	4. 巻 -
2. 論文標題 Summer School of Unlearning Part 3: Instead of an Epilogue	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 beuys on/off	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 -
2. 論文標題 ホー・ツーニエン《ヴォイス・オブ・ヴォイド - 虚無の声》レビュー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ART iT	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延 (構成)	4. 巻 73(1089)
2. 論文標題 ビビロッチェ・リスト (インタビュー)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 184-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延 (構成)	4. 巻 73(1089)
2. 論文標題 志賀理江子 (インタビュー)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 112-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延 (構成)	4. 巻 73(1089)
2. 論文標題 アン・イーストマン (インタビュー)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 106-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 73(1089)
2. 論文標題 芸術と科学技術、そして「女性」作家ーある違和感から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 98-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jung-Yeon Ma	4. 巻 -
2. 論文標題 "We Don't Make It without the Rose, Because We Can No Longer Think."	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 beuys on/off	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬定延	4. 巻 73(1087)
2. 論文標題 アーカイブという結節点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jung-Yeon Ma	4. 巻 -
2. 論文標題 Education After Beuys	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 beuys on/off	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 馬定延
2. 発表標題 歴史の中の声に耳を傾ければ：《旅館アポリア》以後のホー・ツーニエンの作品を読む
3. 学会等名 [ASJC Reading List] Ho Tzu Nyen: Time & the Cloud (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 馬定延
2. 発表標題 リサーチについて私が知っている二、三の事柄
3. 学会等名 美術館とリサーチ アートを“深める”とは? (国立アートリサーチセンター) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 イ・スジョン、馬定延
2. 発表標題 空、境界のない
3. 学会等名 第26回中之島映像劇場 (国立国際美術館、企画協力: 韓国国立現代美術館) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Ho Tzu Nyen, Ma Jung-Yeon
2. 発表標題 Hotel Aporia: Artist Tour and Conversation with Ho Tzu Nyen and Dr. Ma Jung-Yeon
3. 学会等名 Ho Tzu Nyen: Time & Tiger (Singapore Art Museum) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 馬定延
2. 発表標題 現代美術と映像表現
3. 学会等名 PROJECT A_Think School (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Barbara London, Ma Jung-Yeon
2. 発表標題 Dara Birnbaum: Visionary Pioneer
3. 学会等名 DARA BIRNBAUM展 (PRADA) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田中功起、馬定延
2. 発表標題 現代美術と映像 田中功起との対話
3. 学会等名 第25回中之島映像劇場 (国立国際美術館)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jung-Yeon Ma
2. 発表標題 How can we map Ho Tzu Nyen's Artistic Territory? On Hotel Aporia, Voice of Void and Night March of Hundred Monsters
3. 学会等名 Symposium: Critical Dictionary of Ho Tzu Nyen (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 キム・ヘジュ、馬定延
2. 発表標題 釜山ビエンナーレ2022: 波の上の私たち
3. 学会等名 国立国際美術館・トーク・マラソン2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jung-Yeon Ma
2. 発表標題 Ecological Perspectives of Seiko Mikami 's Early works
3. 学会等名 International d'Histoire de l'Art (CIHA): The 35th CIHA World Congress - Motion: Migrations (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 馬定延
2. 発表標題 現代映像芸術のスクリーン・プラクティス - 2021年に開催された3つの展覧会を中心に
3. 学会等名 表象文化論学会第15回研究発表集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jung-Yeon Ma
2. 発表標題 Random Access Information
3. 学会等名 Nam June Paik Art Center: Gift of Nam June Paik 13: Video Digital Commons (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 バーバラ・ロンドン、馬定延
2. 発表標題 トーク&ディスカッション：バーバラ・ロンドン X 馬定延
3. 学会等名 Viva! Video 久保田成子展 (国立国際美術館) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Juhyun Cho, Soojung Yi, Seong Eun Kim, Jung-Yeon Ma, Jeanette Bisschops, Martin Germann, Soyeon Ahn, Hojeong Hur, Nam-see Kim	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Drifting Curriculum Books, The Floor Plan	5. 総ページ数 236
3. 書名 The One Work: Sojung Jun [ARCO(Art Council Korea) 2022-2023 Artist Research-Study-Critique]	

1. 著者名 十和田市現代美術館（監修）、馬定延（分担執筆）、大坂紘一郎（分担執筆）、ジュリアン・ロス（分担執筆）、中川千恵子（分担執筆）、蔵屋美香（インタビュアー）、荒木悠（インタビュイー）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 144
3. 書名 荒木悠 LONELY PLANETS	

1. 著者名 小田原のどか（編著）、山本浩貴（編著）、馬定延（分担執筆）、大坂紘一郎（分担執筆）、他18人	4. 発行年 2023年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 852
3. 書名 この国（近代日本）の芸術：＜日本美術史＞を脱帝国主義化する	

1. 著者名 大坂紘一郎（編）、三上真理子（編）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 O-eA	5. 総ページ数 115
3. 書名 O-eA journal vol.1 加速する東洋 / Accelerating the East	

1. 著者名 森美術館（編）、馬定延（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 森美術館	5. 総ページ数 184
3. 書名 MAM Documents 004 アレクサンドリアから東京まで：アート、植民地主義、そして絡み合う歴史	

1. 著者名 美術手帖編集部（編）、馬定延（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 美術出版社	5. 総ページ数 444
3. 書名 美術手帖 REVIEWS 2020.1.1-12.31	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ダラ・バーンバウムとは誰か？ーブラダ青山店にて「DARA BIRNBAUM」展が開催 https://www.gqjapan.jp/article/20230706-dara-birnbaum-prada-aoyama 【報告】シンポジウム：映像と時間 https://www.repre.org/repre/vol147/meeting16/symposium/ 連載 田中功起 質問する 18-5：終わりという可能性 https://www.art-it.asia/top/contributertop/231457/ 連載 田中功起 質問する 18-3：「これまで」と「これから」の間について https://www.art-it.asia/top/contributertop/228482 連載 田中功起 質問する 18-1：最初の接点 https://www.art-it.asia/top/contributertop/225216 Making Random Access to Nam June Paik https://njp.art-it.asia/top/contributertop/admin_ed_columns/218653 Gift of Nam June Paik 13: Video Digital Commons https://njp.art-it.asia/top/contributertop/admin_ed_columns_e/222729 生と芸術の讃歌：Viva! Video 久保田成子（邦訳） https://www.mot-art-museum.jp/blog/staff/2022/01/20220113110216/</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	大坂 紘一郎 (OSAKA Koichiro) (50969699)	京都芸術大学・その他の研究科(大学院)・准教授 (34319)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 表象文化論学会第16回研究発表集会シンポジウム「映像と時間」	開催年 2022年～2022年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------